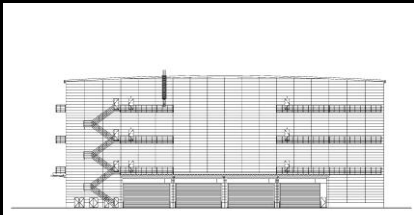


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ロジクロス厚木開発計画	階数	4
建設地	厚木市上落合字柳添231番1	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,840 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年2月25日
敷地面積	14,782 m ²	作成者	(株)ティーディーシー
建築面積	7,784 m ²	確認日	2016年3月8日
延床面積	29,896 m ²	確認者	(株)鴻池組東京本店一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算
 ①参照値
 ②建築物の取組み
 ③上記+②以外の
 ④上記+

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.9**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.6**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他
敷地境界に沿って緑化を図り、周囲からの景観に配慮している。 また、大型の倉庫という建物性質上、大型車両の出入りが多くなることから、トラック待機場を設置し、また、大型の車両の対面通行が可能な幅員の進入出路を設け、周辺に渋滞を発生させないように配慮している。	0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能 自家発電設備を設置している。 また通信設備を使用を想定している事務系諸室についてはOA707とし、通信配線の更新に対応できる計画としている。
LR1 エネルギー LED照明器具を使用し、設備の高効率化を図っている。	Q3 室外環境 (敷地内) 主要な道路から視つかった建物配置とし、また白系をベースとした色彩計画で周囲の景観との調和に配慮している。 敷地境界に沿って生垣を設けており、付帯設備の見え方に配慮している。
	LR2 資源・マテリアル 節水型便器、自動水栓を設置することで節水を図っている。
	LR3 敷地外環境 自転車での通勤も可能となるよう屋根付きの駐輪場を設置している。 トラック待機場の他、一般車両用の駐輪場を敷地北側に68台程度計画している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される